

令和 6 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 10			学校名		県立友部東特別支援学校										学校長名			大槻 晋吾											
副校長名						教頭名		佐藤 教子						事務（室）長名			谷田部 美紀													
教職員数	教諭	39	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	0	実習助手	2	寄宿舎指導員	0	事務職員	3	技術職員等	3	SSS	1	計	54										
児 童 ・ 生徒数	部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数														
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女															
	小学部	2	0	0	0	2	2	1	1	5	2	0	0	10	5	7														
	中学部	1	1	1	2	4	4							6	7	6														
	高等部	5	0	2	1	3	1							10	2	4														
	計														26	14	17													
訪問教育	病院名			小 1		小 2		小 3		小 4		小 5		小 6		中 1		中 2		中 3		高 1		高 2		高 3		合計		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
	県立こども病院			1	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8
	県立こころの医療センター			0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
	筑波大学附属病院			1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5	
	県立医療大学付属病院			0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	5	4	9	
	土浦協同病院			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計			2	0	0	0	2	2	1	1	5	2	0	0	0	1	0	1	2	4	1	0	0	1	1	0	14	12	26

2 目指す学校像

- ◆こころとからだにやさしく寄り添う学校
- ◆「夢や希望」に向かって自分らしく成長できる学校
- ◆信頼とつながりを大切にする学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	・児童生徒用タブレット端末が一人1台ずつ整備されたことやポケット Wi-Fi が増えたことで、本校だけでなく訪問学級においても、ICT 機器を授業で積極的に活用し、一人一人に応じた学習ができています。 ・コロナ、心理的な不安等で登校できない生徒にはオンライン授業を提供し、登校できる場合には環境作りに配慮している。 ・いじめ防止方針を見直し、全教職員への周知と、「いじめの認知」を「不安・悩みの認知」とし積極的に推進することで早期対応し、重大化の防止に努めている。 ・不安・悩みに関するアンケート及び聞き取り調査を学期に1回実施し、児童生徒の様子や変化を読み取り、いじめの未然防止に努めている。 ・職場体験や現場実習、学校見学で進路を見据えた実践的な学習を生徒に合わせて実施し、社会的な経験を広げることができている。また、必要に応じて福祉との連携を密に図り、在学中から卒業後の支援につなげることができている。 ・勤務時間を意識した働き方の意識が高まっており、時間外勤務も少なくなってきたが、さらに業務の見直しや情報共有の効率化等を図る必要がある。	ICT 活用に係る教職員の知識や技術の全体的な向上を図りたい。そのために、ICT 活用に係る校内研修と絡めながら各部・訪問教育のニーズに応じた全体研修や OJT での研修体制を整える。 教職員のメンタルヘルスの向上が課題である。授業改善や教育活動が組織的・計画的に推進されるよう、各種委員会等を充実させながら、引き続き業務の見直しや情報共有の効率化等を図る。（働き方改革） いじめの定義、子どもの人権支援会議の目的について周知徹底していく。 アンケートや聞き取り調査の結果を適切に活用して早期支援や予防につなげる。 進路先等の情報提供や実習評価票を利用し、個に応じた進路指導の充実を図る。
学習指導	・Co-MaMe（こころの病気のあるこどもへの教育支援）等のアセスメントを活用し、各部で月1回程度研修を継続して行い、実態把握や学習評価等に基づいた授業づくりに生かすことで、教員間で共通理解を図り、児童生徒一人一人に応じた適切な支援を行っている。 ・ICT 機器を授業で積極的に活用し、多様な授業展開により、児童生徒の学習に対する興味・関心を喚起し、学習意欲の向上とともに、児童生徒が考えや思いを表現しやすい環境を作ることができている。タブレット端末が一人1台ずつ整備されたことやポケット Wi-Fi が増えたことで、本校だけでなく訪問学級においても、ICT を活用し一人一人に応じた学習ができています。 ・Web 会議システムや ICT 機器を活用して、地域の学校や特別支援学校の生徒と学校間交流を実施している。また、訪問学級においては、前籍校とオンラインによるグループ学習等を行ったり、本校訪問学級間で交流したりしている。また、音楽コンサートを通して全国の院内学級の児童生徒ともつながりがもてより広範な交流を深めることができている。	Co-MaMe 等のアセスメントツールをさらに効果的かつ効率的に活用できるように改善を図っていききたい。そのためにも学部全体で実態把握を行い、支援方法を協議し、共通理解のもとによりよい支援をしていく必要がある。 教員間で ICT 機器を活用した授業の事例を共有したり、使用しているアプリ等を参考にしたりして活用能力を向上させる。 Web 会議システムを活用した交流は、相手校との日時の設定や通信環境の整備をしていく必要がある。また、交流内容や方法児童生徒の実態を踏まえて計画を立てたい。 教科会を活用し、連携を図ることでよりよい授業づくりにつなげる必要がある。

4 中期的目標

- 1 医療との連携により、病弱教育の専門性の向上に努める。
- 2 多様な学びの場において、児童生徒がよりよく学ぶ環境を整え支援にあたる。
- 3 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒一人一人の状態に応じた学習を推進する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
○自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実	①基本的生活習慣(挨拶・整容・姿勢・言葉遣い・時間管理等)と豊かな心の育成 ②切れ目のない支援と、系統的なキャリア教育の推進 ③進路選択を促す体験的な学習の充実及び個に応じた適切な進路指導 ④地域との交流や地域の教育力・資源等を活用した教育活動への展開（コミュニティ・スクール）
○一人一人の個性や特性及び状態に応じた指導・支援の充実	⑤子どもの気持ちの理解と、学習空白に対応した適切な指導・支援 ⑥教育的ニーズに応じた柔軟な対応と分かる授業の実践 ⑦自立活動の指導内容を意識した教科指導の充実 ⑧各授業における ICT の有効的な活用
○病弱教育の専門性の向上	⑨確かな専門性を踏まえた一人一人に寄り添う支援 ⑩校内研修等の充実による、専門性の向上 ⑪医療・福祉等、関係機関との連携・協働を通じた、支援の充実 （学校病院連絡会・復学支援会議・校内教育支援会議等）
○センター的機能の充実	⑫県内唯一の病弱特別支援学校として、組織的な支援を推進 ⑬教育相談及び入試相談の充実 ⑭病弱教育の積極的な発信 ⑮個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成と活用の支援
○安全・安心な学校づくり	⑯心の居場所となる安心して学べる学校づくり ⑰いじめの予防的取り組みと組織的対応の充実 ⑱感染症等対策の徹底 ⑲危機管理マニュアル等の評価・見直し・改善